

作業療法士	0.6	1.1	0.4	1.1	0.7
言語聴覚士	0.1	0.4	0.2	0.3	0.3
あん摩マッサージ指圧師	0.2	0.1	0.2	0.4	0.3
視能訓練士	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2
歯科衛生士	0.1	0.2	0.2	0.4	0.2
歯科技工士	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
診療情報管理士	0.0	0.2	0.1	0.2	0.1
管理栄養士	0.7	0.9	0.9	1.3	1.0
栄養士	0.3	0.0	0.3	0.3	0.3
調理師	3.2	2.2	3.9	4.5	3.6
医療社会事業従事者	0.1	0.3	0.4	0.8	0.5
同上(MSW 再掲)	0.0	0.3	0.2	0.7	0.3
事務職	9.6	10.6	9.5	14.3	10.9
現業労務職	1.9	1.8	3.7	4.2	3.3
その他(※)	3.7	0.2	2.3	5.5	2.8
地域医療連携部門(再掲)	0.8	0.7	0.5	0.5	0.6
合計	111.9	116.6	125.2	114.5	119.5

看護職(再掲)	54.3	68.4	74.9	59.9	67.8
---------	------	------	------	------	------

病床数計	1,132	1,880	4,613	2,357	9,982
------	-------	-------	-------	-------	-------

「病院運営実態分析調査」との比較

「平成16年度病院運営実態分析調査—一般病院—（以下、「実態調査」という。）」から100床当たり職員数を比較した。

合計では、本調査が119.5人に対し、実態調査が121.7人とほぼ同水準の人員配置となっている。職種別の比較結果は次のとおり。

- ① 医師・歯科医師：本調査が12.8人に対し、実態調査は14.3人で、本調査が実態調査に比べ（以下同じ）1.5人少ない。
- ② 看護職
看護職全体では、本県調査が67.8人に対し実態調査が72.6人で、4.8人少ない。
ア 看護師：本調査が54.2人に対し、実態調査が58.5人と4.3人少ない。
イ 准看護師：本調査が7.4人に対し、実態調査が6.8人と0.6人多い。
ウ 看護助手：本調査が6.2人に対し、実態調査が7.2人と1.0人少ない。
- ③ 診療放射線技師・診療X線技師：本調査が2.8人に対し、実態調査が3.2人と0.4人少ない。
- ④ 薬剤師：本調査が2.9人に対し、実態調査が3.2人と0.3人少ない。
- ⑤ 臨床検査技師・衛生検査技師：本調査が4.5人に対し、実態調査が4.6人でほとんど差がなかった。

- ⑥ 管理栄養士・栄養士：本調査が1.3人に対し、実態調査が1.2人でほとんど差がなかった。
- ⑦ 事務職：本調査が10.9人に対し、実態調査が10.5人とほとんど差がなかった。

表 2- (2) -3 病床 100 床当たり職員数－病院運営実態調査との比較－

(単位：人)

	本調査	病院運営実態調査 (一般病院)	差
医師	12.8	14.3	△ 1.5
歯科医師			
看護師	54.2	58.5	△ 4.3
准看護師	7.4	6.8	0.6
看護助手	6.2	7.2	△ 1.0
助産師	2.5	-	-
診療放射線技師	2.8	3.2	△ 0.4
診療X線技師			
薬剤師	2.9	3.2	△ 0.3
臨床検査技師	4.5	4.6	0.0
衛生検査技師			
臨床工学技士	0.7	0.8	△ 0.1
理学療法士	1.4	1.7	△ 0.3
作業療法士	0.7	0.6	0.1
言語聴覚士	0.3	0.2	0.1
あん摩マッサージ指圧師	0.3	0.2	0.1
視能訓練士	0.2	0.3	△ 0.1
歯科衛生士	0.3	0.4	△ 0.1
歯科技工士			
診療情報管理士	0.1	0.2	△ 0.1
管理栄養士	1.3	1.2	0.1
栄養士			
調理師	3.6	2.1	1.5
医療社会事業従事者	0.5	0.5	0.0
事務職	10.9	10.5	0.4
現業労務職	3.3	-	-
その他(※)	2.8	-	-
地域医療連携部門(再掲)	0.6	-	-
合計	119.5	121.7	△ 2.2

看護職計(再掲)	67.8	72.6	△ 4.8
----------	------	------	-------

※「病院運営実態分析調査」：当該調査は、全国公私病院連盟及び社団法人日本病院会が協力し、例年 6 月に実施している。今回回答のあった病院数は 1,201 病院（回収率 34.9%）、その内訳は、国立・大学付属病院 22、自治体病院 659、その他公的病院 247、私的病院 273。

3 医師・歯科医師について

（1）診療科別常勤医師数

全 体

常勤医師総数は 1,082 人で、診療科別では、「内科」が 220 人（20.3%）で最も多く、次いで「外科」154 人（14.2%）、「整形外科」95 人（8.8%）、「小児科」59 人（5.5%）、「産婦人科」52 人（4.8%）、「麻酔科」46 人（4.3%）、「脳神経外科」45 人（4.2%）の順となっている。

地域別では、村山地域が 613 人（56.7%）と最も多く、次いで庄内地域が 229 人（21.2%）、置賜地域が 180 人（16.6%）、最上地域が 60 人（5.5%）であった。

「医師・歯科医師・薬剤師調査」（平成 14 年）との比較

病院従事者割合及び診療科別医師数の構成割合等について、本調査と「平成 14 年医師・歯科医師・薬剤師調査（以下「三師調査」という。）」で比較した。

病院従事者割合を三師調査で見ると、全国は医師総数 262,687 人のうち病院従事者は 159,131 人で 60.6%に対し、本調査全体では 58.4%とほとんど差はなかった。

地域別では、最上地域（62.1%）及び村山地域（61.5%）が全国比率を上回り、置賜地域は 57.1%とやや下回っている。庄内地域は 50.0%で病院従事者と診療所等従事者が同率となっている。

今回の調査による常勤医師数及び三師調査における病院従事者医師数を基にその捕捉率は、全体では 77.8%、村山地域が 72.5%、最上地域が 77.9%、置賜地域が 84.5%、庄内地域が 89.8%となっている。

次に、診療科別医師構成割合を見ると、本調査が三師調査（病院従事者）に比べ構成割合の少ない診療科は、「精神科」は本調査が 2.5%に対し、三師調査では 6.2%で 3.7 ポイント本調査が少なく、「内科」は 20.3%に対し 22.6%で 2.3 ポイント、「循環器科」は 2.9%に対して 4.5%で 1.6 ポイントといずれも本調査が少なかった。

一方、「外科」は 14.2%に対して 11.7%で 2.5 ポイント、「整形外科」は 8.8%に対して 7.6%で 1.2 ポイント、「脳神経外科」は 4.2%に対して 3.5%で 0.7 ポイント、「耳鼻咽喉科」は 3.2%に対して 2.5%で 0.7 ポイント、「麻酔科」は 4.3%に対して 3.6%で同じく 0.7 ポイント、いずれも本調査が多かった。

その他の診療科については、構成比にほとんど差は見られなかった。

表 3-(1)-1-1 病院従事者割合及び捕捉率等ー平成 14 年医師・歯科医師・薬剤師調査からー

	H14 年医師・歯科医師・薬剤師調査			本調査		
	医師総数 (A)	うち病院従事者 (B)	病院従事者割合 (B)/(A)	医師総数 (C)	地域割合	捕捉率 (C)/(B)
村山地域	1,376	846	61.5%	613	56.7%	72.5%
最上地域	124	77	62.1%	60	5.5%	77.9%
置賜地域	373	213	57.1%	180	16.6%	84.5%
庄内地域	510	255	50.0%	229	21.2%	89.8%
合計	2,383	1,391	58.4%	1,082	100.0%	77.8%

全国	262,687	159,131	60.6%
----	---------	---------	-------

表 3-(1)-1-2 診療科別医師構成割合ー平成 14 年医師・歯科医師・薬剤師調査との比較ー

	診療科別構成割合比較		
	本調査結果 A	医師・歯科医師・薬剤師 調査(病院従事者) B	差(A-B)
内科	20.3	22.6	△ 2.3
心療内科	0.0	0.2	△ 0.2
精神科	2.5	6.2	△ 3.7
神経内科(神経科)	2.4	2.1	0.3
呼吸器科	2.0	1.8	0.2
消化器科・胃腸科	4.1	4.2	△ 0.1
循環器科	2.9	4.5	△ 1.6
アレルギー科	0.0	0.1	△ 0.1
リウマチ科	0.0	0.3	△ 0.3
小児科	5.5	5.3	0.2
外科	14.2	11.7	2.5
整形外科	8.8	7.6	1.2
形成外科	0.8	0.9	△ 0.1
気管食道科	0.0	0.0	0.0
脳神経外科	4.2	3.5	0.7
呼吸器外科	0.6	0.6	△ 0.0
心臓血管外科	1.6	1.6	0.0
小児外科	0.2	0.4	△ 0.2
皮膚科	2.2	2.2	0.0
泌尿器科	4.0	3.0	1.0
産婦人科	4.8	3.9	0.9
産科	0.3	0.2	0.1
婦人科	0.2	0.3	△ 0.1

眼科	3.3	3.4	△ 0.1
耳鼻咽喉科	3.2	2.5	0.7
リハビリテーション科	0.6	0.8	△ 0.2
放射線科	3.0	2.8	0.2
麻酔科	4.3	3.6	0.7
病理	1.0	—	—
こう門科	0.0	0.1	△ 0.1
歯科口腔外科	1.7	—	—
歯科	0.6	—	—
矯正歯科	0.0	—	—
その他	0.9	3.6	△ 2.7
合計	100.0	100.0	

地域別比較 1－構成割合－

診療科別医師数の構成割合を地域別に比較すると、「内科」は最上地域が40.0%と極めて高く、次いで村山地域は21.4%、庄内地域は17.5%となっている。一方、置賜地域は13.9%と低く、同地域の「外科」と同構成割合となっている。

全国的に診療科の医師偏在が問題となっている「小児科」「産婦人科」「麻酔科」「放射線科」を見ると、「小児科」は最上地域以外では5%台の構成割合に対し、最上地域は3.3%と不足傾向がうかがえる。「産婦人科」も最上地域が1.7%と他3地域（4.4%～5.2%）に比べ極めて低い割合となっている。「麻酔科」は、村山地域、最上地域及び庄内地域が4.4%～5.0%に対し、置賜地域が3.3%とやや低い割合となっている。「放射線科」は、村山地域（3.6%）及び最上地域（3.3%）が3%台、置賜地域が2.2%に対し、庄内地域は1.7%と最も低く、村山地域の約2分の1となっている。

表 3-(1)-2 医師数及び構成比率(地域別・診療科別)

	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	回答施設数	割合	4	割合	9	割合	11	割合	44	割合
内科	131	21.4%	24	40.0%	25	13.9%	40	17.5%	220	20.3%
心療内科										
精神科	14	2.3%			9	5.0%	4	1.7%	27	2.5%
神経内科(神経科)	18	2.9%	1	1.7%	4	2.2%	3	1.3%	26	2.4%
呼吸器科	13	2.1%			6	3.3%	3	1.3%	22	2.0%
消化器科・胃腸科	15	2.4%			15	8.3%	14	6.1%	44	4.1%
循環器科	10	1.6%			11	6.1%	10	4.4%	31	2.9%
アレルギー科										
リウマチ科										
小児科	35	5.7%	2	3.3%	10	5.6%	12	5.2%	59	5.5%
外科	76	12.4%	10	16.7%	25	13.9%	43	18.8%	154	14.2%

整形外科	53	8.6%	7	11.7%	17	9.4%	18	7.9%	95	8.8%
形成外科	4	0.7%			1	0.6%	4	1.7%	9	0.8%
気管食道科										
脳神経外科	29	4.7%	2	3.3%	7	3.9%	7	3.1%	45	4.2%
呼吸器外科	2	0.3%					4	1.7%	6	0.6%
心臓血管外科	9	1.5%			3	1.7%	5	2.2%	17	1.6%
小児外科	1	0.2%					1	0.4%	2	0.2%
皮膚科	16	2.6%	2	3.3%	3	1.7%	3	1.3%	24	2.2%
泌尿器科	26	4.2%	2	3.3%	7	3.9%	8	3.5%	43	4.0%
産婦人科	32	5.2%	1	1.7%	9	5.0%	10	4.4%	52	4.8%
産科							3	1.3%	3	0.3%
婦人科	1	0.2%					1	0.4%	2	0.2%
眼科	21	3.4%	2	3.3%	7	3.9%	6	2.6%	36	3.3%
耳鼻咽喉科	21	3.4%	2	3.3%	6	3.3%	6	2.6%	35	3.2%
リハビリテーション科	5	0.8%					1	0.4%	6	0.6%
放射線科	22	3.6%	2	3.3%	4	2.2%	4	1.7%	32	3.0%
病理	5	0.8%			2	1.1%	4	1.7%	11	1.0%
麻酔科	27	4.4%	3	5.0%	6	3.3%	10	4.4%	46	4.3%
こう門科										
歯科口腔外科	12	2.0%			3	1.7%	3	1.3%	18	1.7%
歯科	5	0.8%					2	0.9%	7	0.6%
矯正歯科										
その他	10	1.6%							10	0.9%
合計	613	100.0%	60	100.0%	180	100.0%	229	100.0%	1,082	100.0%

(注)「割合」は、各項目の数値を、「合計」の数値で除したもの。

地域別比較 2－病床 100 床当たり医師数－

主な診療科について地域別に比較してみると、「内科」は最上地域が 100 床当たり 12.9 人と最も多く、次いで庄内地域が 11.0 人、村山地域が 10.1 人であった。置賜地域は 8.3 人で最上地域と 4 人以上の差が見られる。

「小児科」では、庄内地域が 31.6 人と最も多く、次いで村山地域が 22.0 人、最上地域が 15.4 人に対し、置賜地域が 6.5 人と庄内地域の約 5 分の 1 となっている。

「脳神経外科」では、村山地域が 11.0 人、庄内地域が 8.6 人に対し、置賜地域が 5.4 人、最上地域が 4.5 人と村山地域の約半分または半分以下となっている。

「産婦人科」では、置賜地域が 15.3 人、次いで村山地域が 10.2 人、庄内地域が 9.8 人とほぼ同じ水準に対し、最上地域は 3.7 人で最も少なく、最上地域は置賜地域の約 4 分の 1 となっている。

「外科」は、置賜地域が 18.2 人と最も多く、次いで最上地域が 16.4 人、村山地域が 15.2 人、庄内地域が 13.5 人と上記診療科ほど際立った差は見られなかった。

「泌尿器科」は、庄内地域が20.0人と最も多く、次いで村山地域が16.0人、置賜地域が12.1人に対し、最上地域は8.3人と庄内地域の約4割となっている。

「整形外科」は、庄内地域が15.8人、置賜地域が12.4人、最上地域が10.8人に対し、村山地域が9.0人と最も少なく庄内地域の6割弱となっている。

表 3-(1)-3 病床 100 床当たり医師数（地域別・診療科別）

（単位：人）

	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	全体
内科	10.1	12.9	8.3	11.0	10.2
心療内科	—	—	—	—	—
精神科	35.0	—	5.8	28.6	12.9
神経内科（神経科）	16.1	—	6.8	10.0	12.9
呼吸器科	26.5	—	14.3	—	24.2
消化器科・胃腸科	17.6	—	22.1	15.1	17.9
アレルギー科	—	—	—	—	—
循環器科	19.2	—	34.4	100.0	33.0
リウマチ科	—	—	—	—	—
小児科	22.0	15.4	6.5	31.6	16.2
外科	15.2	16.4	18.2	13.5	15.2
整形外科	9.0	10.8	12.4	15.8	10.5
形成外科	22.2	—	25.0	40.0	28.1
器官食道科	—	—	—	—	—
脳神経外科	11.0	4.5	5.4	8.6	8.7
呼吸器外科	15.4	—	—	—	46.2
心臓血管外科	18.0	—	10.7	100.0	20.5
小児外科	—	—	—	—	—
皮膚科	41.0	20.0	30.0	30.0	34.8
泌尿器科	16.0	8.3	12.1	20.0	15.1
産婦人科	10.2	3.7	15.3	9.8	10.4
産科	—	—	—	—	—
婦人科	—	—	—	20.0	40.0
眼科	25.6	33.3	41.2	50.0	30.8
耳鼻咽喉科	20.6	16.7	16.2	14.3	18.1
リハビリテーション科	8.3	—	—	20.0	9.2
放射線科	88.0	—	—	—	128.0
麻酔科	540.0	—	600.0	142.9	353.8
病理	—	—	—	—	—
こう門科	—	—	—	—	—

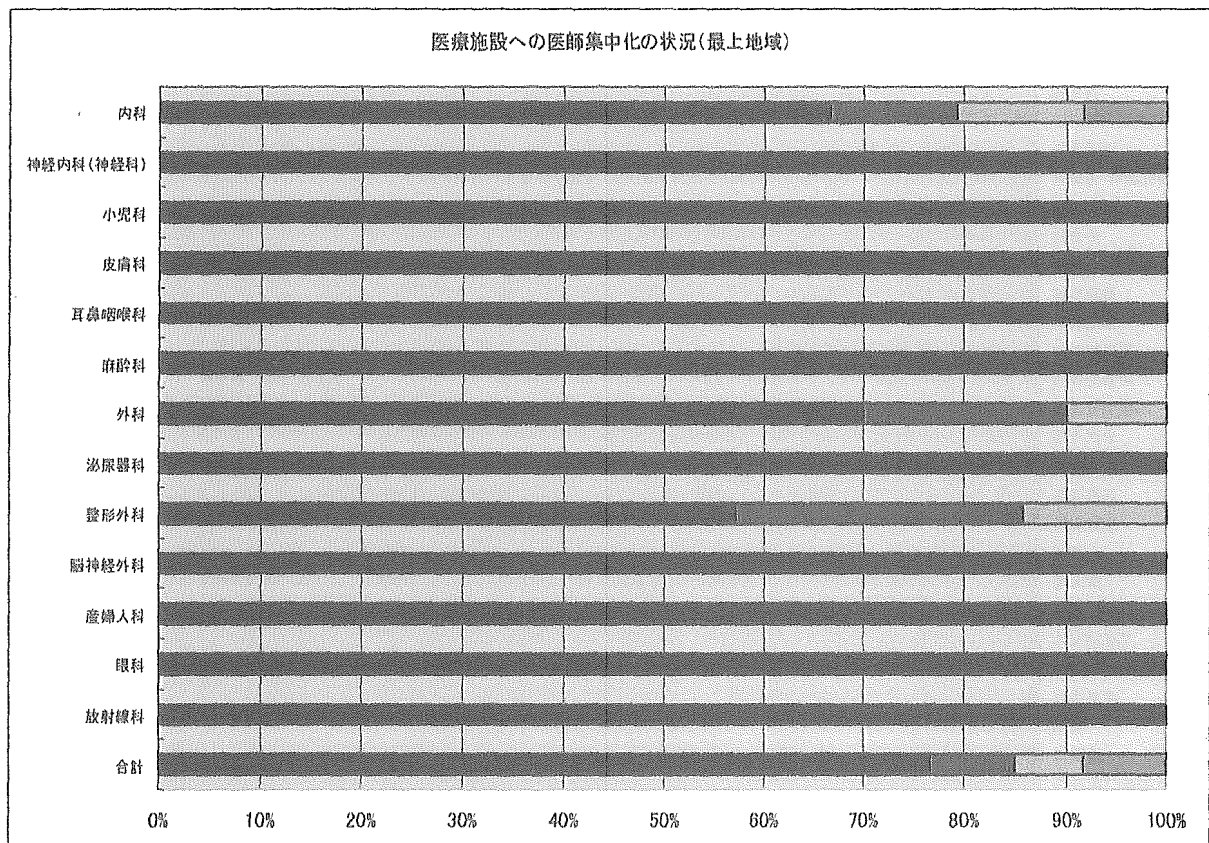
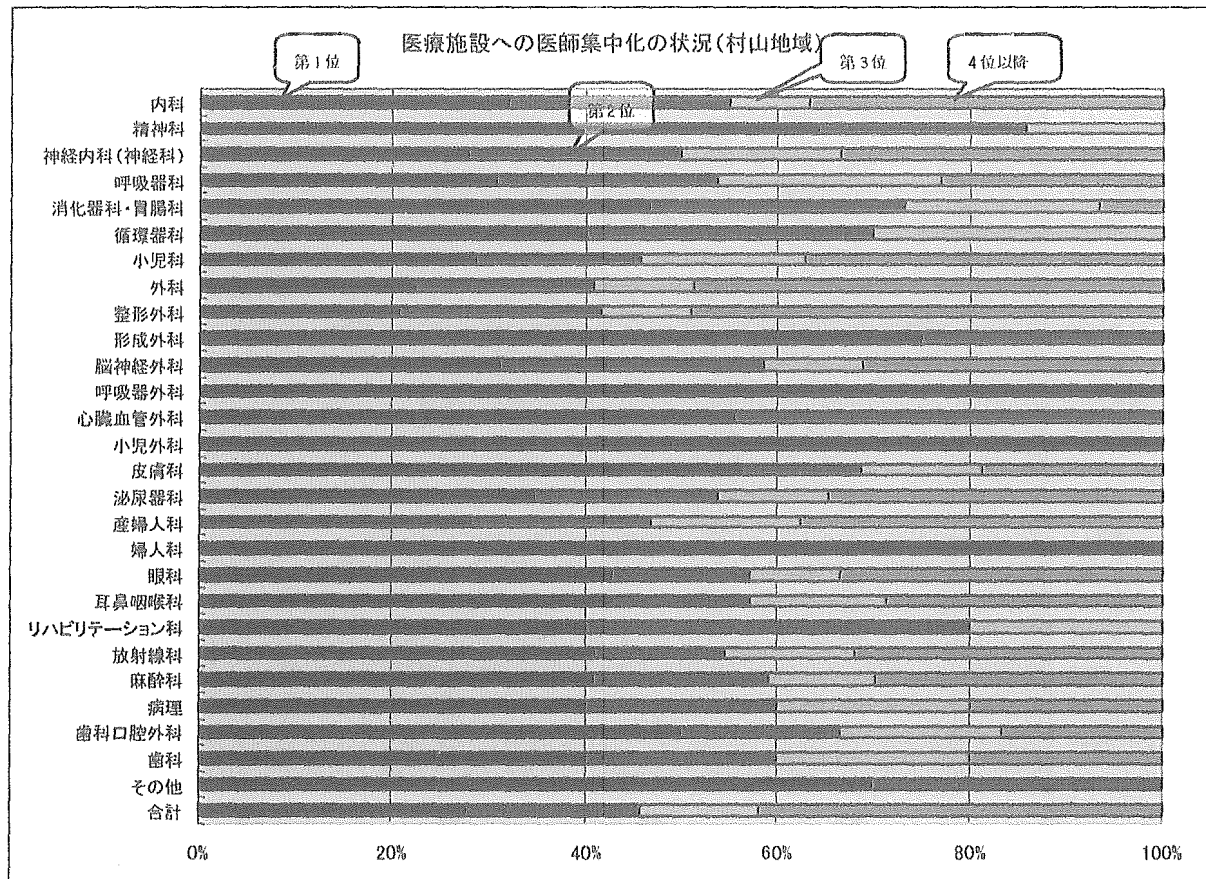
歯科口腔外科	70.6	—	75.0	60.0	69.2
歯科	250.0	—	—	25.0	70.0
矯正歯科	—	—	—	—	—
合計	16.8	12.9	12.4	17.5	15.7

医療施設への医師集中化の状況

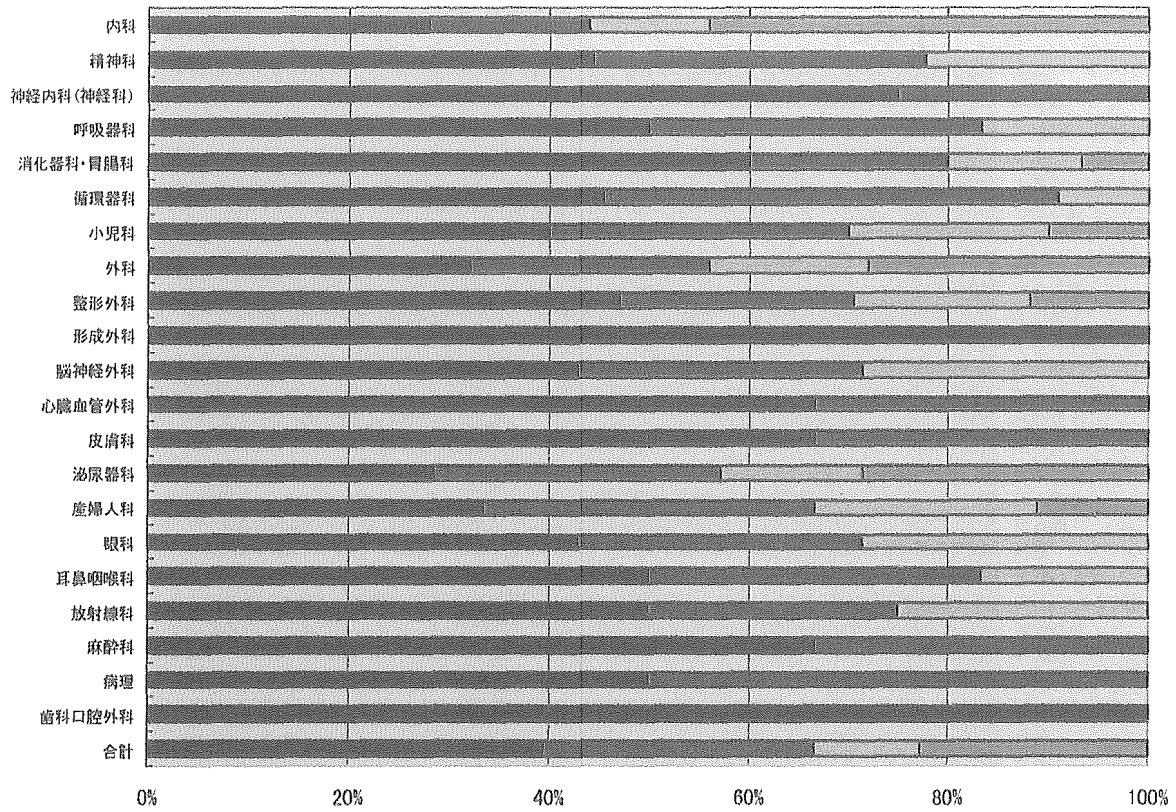
診療科ごとの総医師数における上位医療施設（上位 3 位まで）の占める比率を基に、当該医療圏における医師の医療施設への集中化状況を比較した。

- ・ 村山地域：合計では、上位 1 施設で地域全体の 27.7%、上位 2 施設で 45.7%と約半数を占め、上位 3 施設では 58.1%に達している。診療科別では、1 施設で地域全体をカバーしている診療科は、「呼吸器外科」などであった。同じく上位 2 施設で地域全体をカバーしているのは、「形成外科」「心臓血管外科」であった。同じく上位 3 施設で地域全体をカバーしているのは、「精神科」「循環器科」「リハビリテーション科」であった。一方、上位 3 施設の比率が最も低い（各施設に分散配置されている）のは「整形外科」で 50.9%、次いで「外科」が 51.3%、「産婦人科」が 62.5%、「小児科」が 62.9%、「内科」が 63.4%などであった。
- ・ 最上地域：全体で 4 施設と母数が少ないこともあり、診療科合計では、上位 1 施設で地域全体の 76.7%、上位 2 施設で 85.0%、上位 3 施設で 91.7%に達している。診療科別では、「内科」「外科」「整形外科」を除き、すべて 1 施設で地域全体をカバーしている。
- ・ 置賜地域：合計では、上位 1 施設で全体の 39.4%、上位 2 施設で 66.7%と 7 割弱を占め、上位 3 施設では 77.2%と 8 割弱に達している。診療科別では、1 施設で地域全体をカバーしている診療科は、「形成外科」「歯科口腔外科」であった。。同じく上位 2 施設で地域全体をカバーしているのは、「神経内科（神経科）」「心臓血管外科」「皮膚科」「麻酔科」「病理」であった。同じく上位 3 施設で地域全体をカバーしているのは、「精神科」「呼吸器科」「循環器科」「脳神経外科」「眼科」「耳鼻咽喉科」「放射線科」であった。一方、上位 3 施設の比率が最も低いのは「内科」で 56.0%、次いで「外科」が 72.0%、「泌尿器科」が 71.4%などであった。
- ・ 庄内地域：合計では、上位 1 施設で全体の 30.1%、上位 2 施設で 56.3%、上位 3 施設で 73.8%に達している。診療科別では、1 施設で地域全体をカバーしている診療科は、「呼吸器科」「呼吸器外科」「リハビリテーション科」などであった。。同じく上位 2 施設で地域全体をカバーしているのは、「神経内科（神経科）」「形成外科」「心臓血管外科」「歯科口腔外科」であった。同じく上位 3 施設で地域全体をカバーしているのは、「精神科」「循環器科」「脳神経外科」「皮膚科」「泌尿器科」「眼科」「耳鼻咽喉科」「放射線科」などであった。一方、上位 3 施設の比率が最も低い（各施設に分散配置されている）のは「内科」で 50.0%、次いで「外科」が 53.5%などであった。

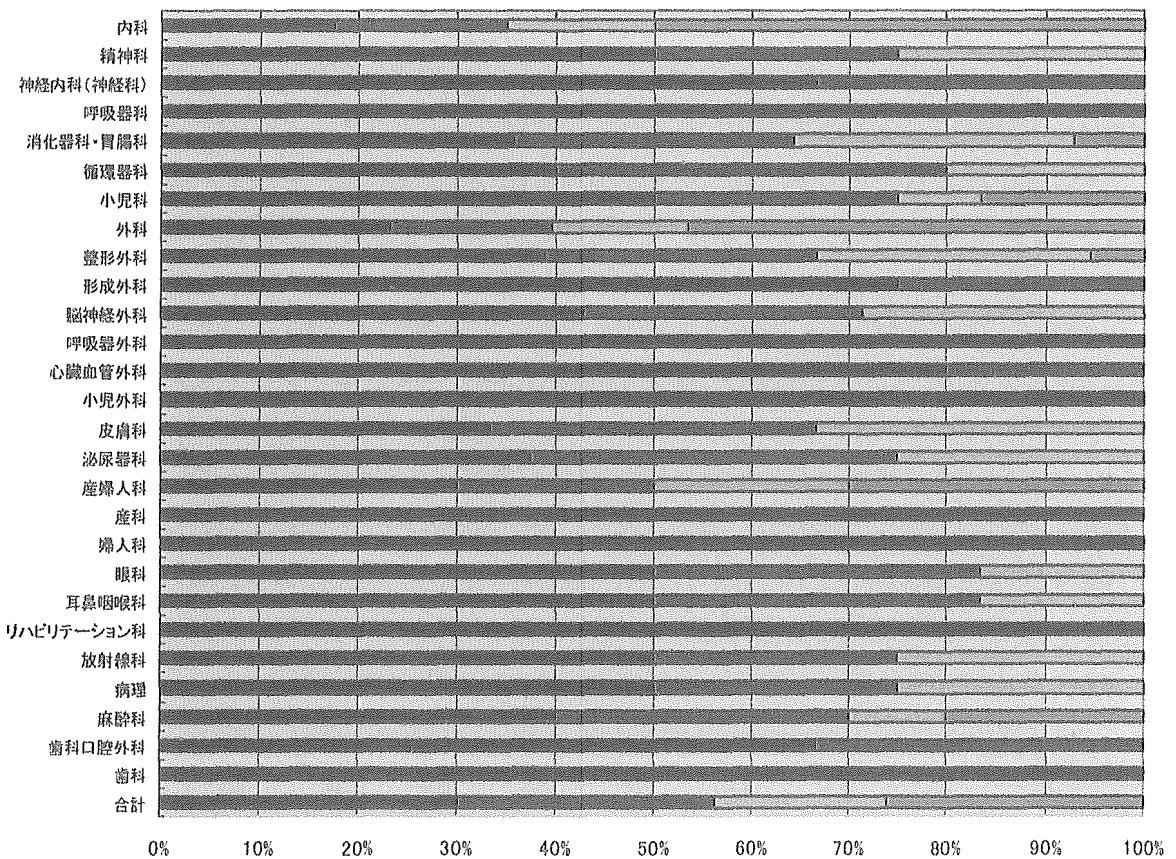
表 3-(1)-4 医療施設への医師集中化の状況（地域別・診療科別）



医療施設への医師集中化の状況(霞賜地域)



医療施設への医師集中化の状況(庄内地域)



(2) 非常勤医師数

全 体

非常勤医師の診療科別構成割合を見ると、内科が66.2人(構成比31.8%)で最も多く、次いで整形外科31.8人(15.3%)、外科14.5人(6.9%)、小児科11.9人(5.7%)、産婦人科11.0人(5.3%)などの順となっている。

表 3- (2) 診療科別非常勤医師数

	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
回答施設数	20	割合	4	割合	8	割合	8	割合	40	割合
内科	47.8	30.7%	2.3	37.5%	6.2	25.9%	9.9	44.3%	66.2	31.8%
心療内科	0.2	0.1%							0.2	0.1%
精神科	4.6	2.9%			0.4	1.6%	0.2	1.0%	5.2	2.5%
神経内科(神経科)	0.3	0.2%			0.8	3.2%	0.6	2.5%	1.6	0.8%
呼吸器科	0.1	0.1%			0.2	0.7%			0.3	0.1%
消化器科・胃腸科	1.5	1.0%			1.6	6.8%	0.4	1.9%	3.6	1.7%
循環器科	1.6	1.0%			1.2	5.1%	0.5	2.3%	3.4	1.6%
アレルギー科										
リウマチ科										
小児科	9.0	5.8%	0.3	4.9%	1.3	5.5%	1.3	6.0%	11.9	5.7%
外科	12.2	7.8%			1.0	4.1%	1.2	5.6%	14.5	6.9%
整形外科	26.9	17.3%	1.0	15.7%	3.5	14.6%	0.4	1.9%	31.8	15.3%
形成外科					0.1	0.4%	0.1	0.2%	0.2	0.1%
気管食道科										
脳神経外科	4.2	2.7%					1.1	4.8%	5.2	2.5%
呼吸器外科	0.1	0.1%							0.1	0.0%
心臓血管外科	0.2	0.1%			0.5	2.1%			0.7	0.3%
小児外科							0.1	0.5%	0.1	0.1%
皮膚科	5.8	3.7%			0.5	2.0%	2.2	9.7%	8.4	4.0%
泌尿器科	0.8	0.5%	0.1	1.6%	1.1	4.7%	1.7	7.5%	3.7	1.8%
産婦人科	10.0	6.4%	0.6	9.9%			0.4	1.6%	11.0	5.3%
産科										
婦人科			0.2	3.3%	1.3	5.5%			1.5	0.7%
眼科	6.1	3.9%	0.4	7.0%	0.7	3.1%	0.1	0.5%	7.4	3.5%
耳鼻咽喉科	8.5	5.4%	0.8	12.4%	1.0	4.0%			10.2	4.9%
リハビリテーション科	0.2	0.1%	0.0	0.6%					0.2	0.1%
放射線科	3.2	2.1%			1.3	5.5%	0.9	4.1%	5.5	2.6%
病理	1.0	0.6%	0.4	7.0%	0.4	1.5%	0.7	3.0%	2.4	1.2%
麻酔科	3.2	2.1%			0.7	2.7%	0.6	2.7%	4.4	2.1%

こう門科										
歯科口腔外科	7.4	4.7%			0.2	0.6%			7.6	3.6%
歯科	1.1	0.7%			0.1	0.4%			1.2	0.6%
矯正歯科										
合計	155.9	100.0%	6.1	100.0%	24.0	100.0%	22.3	100.0%	208.3	100.0%

(注)「割合」は、各項目の数値を、「合計」の数値で除したもの。

(3) 研修医数

臨床研修医（前期研修医）

全体では84名で、うち1年目が44名、2年目が40名とほぼ半々であった。

地域別では、村山地域が65名で77.4%を占めており、次いで庄内地域が12名(14.3%)、置賜地域が6名(7.1%)、最上地域が1名(1.2%)と大学病院及び臨床研修指定病院の多い村山地域に臨床研修医（前期研修医）が集中している。

表 3- (3) -1 臨床研修医（前期研修医）数（地域別）

	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
回答施設数	4	割合	1	割合	2	割合	2	割合	9	割合
研修医(計)	65	77.4%	1	1.2%	6	7.1%	12	14.3%	84	100.0%
うち1年目	34	77.3%	1	2.3%	2	4.5%	7	15.9%	44	100.0%
うち2年目	31	77.5%	-	-	4	10.0%	5	12.5%	40	47.6%

(注)「割合」は、各項目の数値を、「合計」の数値で除したもの。

後期研修医

全体では37名で、うち1年目が23名、2年目及び3年目がそれぞれ7名となっている。

地域別では、村山地域が29名で78.4%を占め前期研修医と同様村山地域に集中している。他は庄内地域が8名(21.6%)で、最上地域及び置賜地域は後期研修医がゼロとなっている。

表 3- (3) -1 後期研修医数（地域別）

	村山地域		最上地域	置賜地域	庄内地域		合計	
回答施設数	2	割合	-	-	2	割合	4	割合
研修医(計)	29	78.4%	-	-	8	21.6%	37	100.0%
うち1年目	17	73.9%	-	-	6	26.1%	23	100.0%
うち2年目	6	85.7%	-	-	1	14.3%	7	100.0%
うち3年目	6	85.7%	-	-	1	14.3%	7	100.0%

(注)「割合」は、各項目の数値を、「合計」の数値で除したもの。

(4) 出身医大別及び出身医局別医師数

出身大学の状況

出身大学別医師数及び構成比を見ると、地元「山形大学」が553人(51.6%)と全体の半数以上にのぼる。次いで、「東北大学」106人(9.9%)、「新潟大学」66人(6.2%)、「弘前大学」40人(3.7%)、「自治医科大学」33人(3.1%)、「岩手医科大学」28人(2.6%)、「日本医科大学」27人(2.5%)、「福島県立医科大学」26人(2.4%)、「秋田大学」25人(2.3%)などとなっている。

東北6県の大学出身者は計778人で、全体の72.6%を占めている。さらに、東北6県、北海道及び新潟県医大出身者は861人で全体の80.4%と北海道・東北及び新潟県で8割を占めている。

表3-(4)-1 出身大学別医師数

回答施設数	43	割合
山形大学医学部	553	51.6%
東北大学医学部	106	9.9%
新潟大学医学部	66	6.2%
弘前大学医学部	40	3.7%
自治医科大学	33	3.1%
岩手医科大学	28	2.6%
日本医科大学	27	2.5%
福島県立医科大学	26	2.4%
秋田大学医学部	25	2.3%
北里大学医学部	14	1.3%
北海道大学医学部	13	1.2%
日本大学医学部	9	0.8%
杏林大学医学部	7	0.7%
昭和大学医学部	7	0.7%
金沢医科大学	7	0.7%
東海大学医学部	6	0.6%
埼玉医科大学	5	0.5%
獨協医科大学	5	0.5%
順天堂大学医学部	5	0.5%
東京医科大学	5	0.5%
群馬大学医学部	4	0.4%
筑波大学医学専門学群	4	0.4%
東邦大学医学部	4	0.4%
富山医科薬科大学医学部	4	0.4%
東京大学医学部	4	0.4%
千葉大学医学部	3	0.3%

東京女子医科大学	3	0.3%
大阪大学医学部	3	0.3%
旭川医科大学	3	0.3%
帝京大学医学部	3	0.3%
福井大学医学部	2	0.2%
愛知医科大学	2	0.2%
産業医科大学	2	0.2%
慶應義塾大学医学部	2	0.2%
東京慈恵会医科大学	2	0.2%
信州大学医学部	2	0.2%
名古屋市立大学医学部	2	0.2%
川崎医科大学	2	0.2%
東京歯科大学	2	0.2%
日本歯科大学	2	0.2%
その他	2	0.2%
東京医科歯科大学医学部	1	0.1%
聖マリアンナ医科大学	1	0.1%
山梨大学医学部	1	0.1%
滋賀医科大学	1	0.1%
岡山大学医学部	1	0.1%
熊本大学医学部	1	0.1%
札幌医科大学	1	0.1%
金沢大学医学部	1	0.1%
三重大学医学部	1	0.1%
京都大学医学部	1	0.1%
近畿大学医学部	1	0.1%
九州大学医学部	1	0.1%
佐賀大学医学部	1	0.1%
琉球大学医学部	1	0.1%
防衛医科大学校	1	0.1%
横浜市立大学医学部	1	0.1%
藤田学園藤田保健衛生大学医学部	1	0.1%
徳島大学医学部	1	0.1%
香川大学医学部	1	0.1%
長崎大学医学部	1	0.1%
宮崎大学医学部	1	0.1%
韓国延世大学医学部	1	0.1%
中国医薬学院	1	0.1%
東北大学歯学部	1	0.1%

日本大学歯学部	1	0.1%
合計	1,071	100.0%

出身医局の状況

出身医局別医師数及び構成比を見ると、地元「山形大学」が547人（62.9%）と6割以上にのぼる。次いで、「東北大学」112人（12.9%）、「新潟大学」62人（7.1%）、「日本医科大学」35人（4.0%）、「福島県立医科大学」25人（2.9%）、「弘前大学」16人（1.8%）、「秋田大学」11人（1.3%）などとなっている。東北6県の大学医局出身者は計719人で、全体の82.6%を占めている。

表 3-（4）-2 出身医局別医師数

回答施設数	33	割合
山形大学医学部	547	62.9%
東北大学医学部	112	12.9%
新潟大学医学部	62	7.1%
日本医科大学	35	4.0%
福島県立医科大学	25	2.9%
弘前大学医学部	16	1.8%
秋田大学医学部	11	1.3%
岩手医科大学	8	0.9%
北海道大学医学部	6	0.7%
自治医科大学	6	0.7%
昭和大学医学部	6	0.7%
その他	5	0.6%
東京大学医学部	4	0.5%
杏林大学医学部	4	0.5%
群馬大学医学部	2	0.2%
筑波大学医学専門学群	2	0.2%
東京女子医科大学	2	0.2%
富山医科薬科大学医学部	2	0.2%
大阪大学医学部	2	0.2%
北里大学医学部	2	0.2%
順天堂大学医学部	2	0.2%
山形県立中央病院医局	2	0.2%
東京医科歯科大学医学部	1	0.1%
産業医科大学	1	0.1%
日本大学医学部	1	0.1%
慶應義塾大学医学部	1	0.1%
東京慈恵会医科大学	1	0.1%

高知大学医学部	1	0.1%
獨協医科大学	1	0.1%
帝京大学医学部	1	0.1%
東京歯科大学	1	0.1%
東北大学歯学部	1	0.1%
聖マリアンナ	1	0.1%
合計	870	100.0%

(5) 常勤医師平均年齢

全体の常勤医師の平均年齢分布は、「40～45 歳」が 19 施設 (43.2%) で最も多く、次いで「35～40 歳」が 11 施設 (25.0%)、「45～50 歳」「50～55 歳」がともに 5 施設 (11.4%) などとなっている。

地域別では、村山地域は「40～45 歳」が 11 施設 (55.0%) と最も多く 5 割以上を占めている。

最上地域は、「35～40 歳」が全体の半分の 2 施設であった。

置賜地域は、「35～40 歳」が 5 施設 (55.6%) で「40～45 歳」の 3 施設 (33.3%) を上回り、地域別では最も若い年齢分布となっている。

庄内地域は、「40～45 歳」が 4 施設 (36.4%) と最も多く、次いで「35～40 歳」が 3 施設 (27.3%) となっている。同地域では、「50～55 歳」「55～60 歳」「60 歳以上」の施設も各 1 施設あり、常勤医師の高齢化の一端がうかがえる。

表 3- (5) 常勤医師平均年齢の医療施設分布 (地域別)

	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	20	比率	4	比率	9	比率	11	比率	44	比率
35 歳未満							1	9.1%	1	2.3%
35 歳以上 40 歳未満	1	5.0%	2	50.0%	5	55.6%	3	27.3%	11	25.0%
40 歳以上 45 歳未満	11	55.0%	1	25.0%	3	33.3%	4	36.4%	19	43.2%
45 歳以上 50 歳未満	4	20.0%	1	25.0%					5	11.4%
50 歳以上 55 歳未満	3	15.0%			1	11.1%	1	9.1%	5	11.4%
55 歳以上 60 歳未満	1	5.0%					1	9.1%	2	4.5%
60 歳以上							1	9.1%	1	2.3%

(注)「比率」は各区分の施設数を全回答施設数にて除したもの。

(6) 常勤医師平均経験年数

全体の常勤医師の平均経験年数分布は、「15～20 年」が 20 施設 (45.5%) と最も多く、次いで「10～15 年」が 13 施設 (29.5%) と「10～20 年」の平均経験年数で 75.0% と 4 分の 3 を占めている。また、「25～30 年」が 2 施設、「30～35 年」が 3 施設、「35 年以上」が 1 施設と経験豊富な医師を中心に配置している施設が各 1 施設あった。一方、「10 年未満」の施設は 1 施設のみで、若手医師を中心に配置している施設は少なかった。

た。

地域別では、村山地域は、「15～20年」が11施設（55.0%）と最も多く、次いで「10～15年」「20～25年」がともに3施設（15.0%）であった。

最上地域は、「10～15年」「15～20年」がそれぞれ2施設であった。

置賜地域は、「10～15年」「15～20年」がともに4施設（44.4%）であった。

庄内地域は、「10～15年」が4施設（36.4%）、次いで「15～20年」が3施設（27.3%）であった。

表3-（6） 常勤医師平均経験年数の医療施設分布（地域別）

回答施設数	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	20	比率	4	比率	9	比率	11	比率	44	比率
10年未満							1	9.1%	1	2.3%
10年以上15年未満	3	15.0%	2	50.0%	4	44.4%	4	36.4%	13	29.5%
15年以上20年未満	11	55.0%	2	50.0%	4	44.4%	3	27.3%	20	45.5%
20年以上25年未満	3	15.0%					1	9.1%	4	9.1%
25年以上30年未満	1	5.0%			1	11.1%			2	4.5%
30年以上35年未満	2	10.0%					1	9.1%	3	6.8%
35年以上							1	9.1%	1	2.3%

（注）「比率」は各区分の施設数を全回答施設数にて除したものの。

（7） 常勤医師平均勤務年数

各医療施設への医師の定着度を見る一つの指標として調査した。

全体では、「5～10年」が20施設（48.8%）と最も多く、次いで「5年未満」が12施設（29.3%）と「10年未満」の施設が全体の8割弱（78.1%）という結果となった。平均勤務年数が「15～20年」「20年～」はそれぞれ3施設、2施設にとどまった。

地域別では、村山地域は、「5～10年」が10施設（50.0%）と最も多く、次いで「5年未満」が5施設（25.0%）であった。

最上地域は、「5年未満」「5～10年」がともに2施設であった。

置賜地域は、「5年未満」「5～10年」がともに4施設であった。

庄内地域は、「5～10年」が4施設（44.4%）と最も多かったが、他地域では該当のない「20年～」が2施設あったことが特徴的であった。

表3-（7） 常勤医師平均年齢の医療施設分布（地域別）

回答施設数	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	20	比率	4	比率	8	比率	9	比率	41	比率
5年未満	5	25.0%	2	50.0%	4	50.0%	1	11.1%	12	29.3%
5年以上10年未満	10	50.0%	2	50.0%	4	50.0%	4	44.4%	20	48.8%
10年以上15年未満	2	10.0%					2	22.2%	4	9.8%
15年以上20年未満	3	15.0%							3	7.3%

20 年以上						2	22.2%	2	4.9%
--------	--	--	--	--	--	---	-------	---	------

(注)「比率」は各区分の施設数を全回答施設数にて除したもの。

(8) 不足医師数

① 医療法に基づく標準医師数に対する不足医師数

全 体

標準医師数に対する不足医師数は全体で 43 人、うち村山地域が 16 人、最上地域が 6 人、置賜地域が 15 人、庄内地域が 6 人であった。

「不足なし」は 21 施設 (47.7%) で、標準医師数を充足している施設は半数に満たなかった。「不足数 1 人未満」が 6 施設 (13.6%)、「1 人～2 人未満」が 8 施設 (18.2%)

「2 人～3 人未満」が 5 施設 (11.4%)、「3 人～4 人未満」が 1 施設 (2.3%) であった。さらに、「4 人以上不足」と厳しい状況にある施設が 3 施設 (6.8%) であった。

地域別

- ・ 村山地域:「不足なし」が 11 施設 (55.0%) と 4 割以上が標準医師数を満たしていない。不足数が、「1 人未満」が 2 施設 (10.0%)、「1 人～2 人未満」が 4 施設 (20.0%) 「2 人～3 人未満」が 2 施設 (10.0%) であった。さらに、「4 人以上」と厳しい医師不足の状況にある施設が 1 施設 (5.0%) であった。
- ・ 最上地域:「不足なし」が 2 施設 (50.0%)、不足数が「2 人～3 人未満」が 1 施設 (25.0%) であり、「4 人以上」と厳しい医師不足の状況にある施設が 1 施設 (25.0%) であった。
- ・ 置賜地域:「不足なし」が 3 施設 (33.3%) と地域全体の三分の一にとどまっている。不足数が「1 人未満」「1 人～2 人未満」がともに 1 施設 (11.1%)、「2 人～3 人未満」が 2 施設 (22.2%) であり、「4 人以上」と厳しい医師不足の状況にある施設が 1 施設 (11.1%) であった。
- ・ 庄内地域:「不足なし」が 5 施設 (45.5%) と半数に満たなかった。不足数が「1 人未満」が 3 施設 (27.3%)、「1 人～2 人未満」が 3 施設 (27.3%) であった。「2 人以上不足」の施設はゼロであり、他地域に比べ不足医師数の水準を見ると比較的充足されている。

表 3- (8) -1 標準医師数に対する充足状況 (地域別)

回答施設数	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	20	比率	4	比率	9	比率	11	比率	44	比率
不足なし	11	55.0%	2	50.0%	3	33.3%	5	45.5%	21	47.7%
1 人未満	2	10.0%			1	11.1%	3	27.3%	6	13.6%
1 人以上 2 人未満	4	20.0%			1	11.1%	3	27.3%	8	18.2%
2 人以上 3 人未満	2	10.0%	1	25.0%	2	22.2%			5	11.4%
3 人以上 4 人未満					1	11.1%			1	2.3%
4 人以上	1	5.0%	1	25.0%	1	11.1%			3	6.8%

不足医師数の合計	16	6	15	6	43
----------	----	---	----	---	----

(注)「比率」は各区分の施設数を全回答施設数にて除したもの。

② 診療科別定員に対する不足医師数

全 体

回答医療施設の医師定員合計に対する不足数は49人との回答結果であった。

診療科別では、「内科」が14人と最も多く、次いで「整形外科」が7人、「耳鼻咽喉科」、「産婦人科」及び「放射線科」がそれぞれ4人不足であった。

さらに、「小児科」、「皮膚科」、「外科」、「泌尿器科」及び「リハビリテーション科」がそれぞれ2人、「神経内科（神経科）」、「麻酔科」、「脳神経外科」、「小児外科」、「眼科」及び「人工透析科」がそれぞれ1人不足であった。

地域別では、村山地域が18人、最上地域が9人、置賜地域が7人、庄内地域が15人それぞれ不足であった。

表 3- (8) -2 定員に対する不足医師数（地域別・診療科別）

	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	定員数	不足数	定員数	不足数	定員数	不足数	定員数	不足数	定員数	不足数
内科	18	6	4	1	9	4	2	3	33	14
神経内科(神経科)							1	1	1	1
小児科			3	1			2	1	5	2
外科							9	2	9	2
整形外科	15	6	3	1					18	7
脳神経外科			3	1					3	1
小児外科	2	1							2	1
皮膚科					2	1	1	1	3	2
泌尿器科			3	1			3	1	6	2
産婦人科	2	1	3	2			4	1	9	4
眼科	1	1							1	1
耳鼻咽喉科	2	1			2	1	2	2	6	4
リハビリテーション科			1	1			1	1	2	2
放射線科	5	2			2	1	2	1	9	4
麻酔科							2	1	2	1
人工透析科			1	1					1	1
合計	45	18	21	9	15	7	29	15	110	49

地域別にみた診療科別定員に対する不足医師数

次に、不足医師数について、地域別に診療科ごとの構成比を見ると、村山地域では、「内科」「整形外科」がともに6人（33.3%）、「放射線科」が2人（11.1%）などとな

っている。

最上地域では、「産婦人科」が2人(22.2%)のほか、「内科」「小児科」「整形外科」「泌尿器科」「リハビリテーション科」「脳神経外科」「人工透析科」がそれぞれ1人であった。

置賜地域では、「内科」が4人(58.8%)、「皮膚科」「耳鼻咽喉科」「放射線科」がそれぞれ1人となっている。

庄内地域では、「内科」が3人(19.7%)、「耳鼻咽喉科」「外科」がともに2人(13.2%)、「神経内科(神経科)」「小児科」「皮膚科」「麻酔科」「泌尿器科」「リハビリテーション科」「産婦人科」「放射線科」がともに1人であった。

表 3- (8) -3 定員に対する不足医師数割合(地域別に見た診療科ごとの構成比)

	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	合計
内科	33.3%	11.1%	58.8%	19.7%	28.9%
神経内科(神経科)				6.6%	2.0%
小児科		11.1%		6.6%	4.0%
外科				13.2%	4.0%
整形外科	33.3%	11.1%			14.1%
脳神経外科		11.1%			2.0%
小児外科	5.6%				2.0%
皮膚科			13.7%	6.6%	4.0%
泌尿器科		11.1%		6.6%	4.0%
産婦人科	5.6%	22.2%		7.9%	8.5%
眼科	5.6%				2.0%
耳鼻咽喉科	5.6%		13.7%	13.2%	8.1%
リハビリテーション科		11.1%		6.6%	4.0%
放射線科	11.1%		13.7%	6.6%	8.1%
麻酔科				6.6%	2.0%
人工透析科		11.1%			2.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

診療科別定員に対する地域ごとの不足医師数

4 地域すべてで不足している診療科は、「内科」のみ(14人)で、そのうち村山地域が6人、最上地域1人、置賜地域4人、庄内地域3人となっている。

3 地域で不足している診療科は、「耳鼻咽喉科」「放射線科」が最上地域を除く3地域で、「産婦人科」が置賜地域を除く3地域で不足している。

2 地域で不足している診療科は、「小児科」が最上地域及び庄内地域で、「皮膚科」が置賜地域及び庄内地域で、「泌尿器科」が最上地域及び庄内地域で、「リハビリテーション科」が最上地域及び庄内地域で、「整形外科」が村山地域及び最上地域でそれぞれ不足している。「神経内科(神経科)」「麻酔科」「外科」「脳神経外科」「眼科」「人工透析